

事前評価個表

整理番号	30
------	----

地域（地区）名	那珂川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	栃木県	対象市町村	矢板市ほか8市町
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>那珂川地域は栃木県の北東部に位置し、日光国立公園の一部である北西部山岳地帯の那須火山群から高原山と中央の平地・丘陵地帯を挟んだ八溝山付近の比較的緩斜部の人工林地帯から南部茂木町に続いている。総土地面積は233千haで県土の36%を占め、森林面積は132.8（うち民有林90.2）千haで地域内の森林率は57%であり、このうち民有人工林は47.7千haで人工林率は53%となっている。本計画では流域内5市4町を対象としている。</p> <p>西部の高原林業地域、北東部の八溝林業地域を中心に古くからスギ・ヒノキ人工林施業による素材生産が広く行われており、豊富な森林資源を背景に大規模製材工場が多数立地している。中東部の丘陵地帯ではナラ・クヌギ等の育成天然林施業によるシタケ原木生産が行われ、広葉樹主体の里山の景観を形成している。また本地域内の森林は、地域内はもとより下流県の重要な水源林となっており、水資源のかん養、山地災害防止に加え、保健休養の場、地球温暖化防止等の多様な公益的機能の高度発揮が求められている。</p> <p>本地域人工林は齢級構成のピークが 齢級となっており、利用期を迎えた充実した森林資源を有するものの、林業採算性の悪化や不在村森林所有者の増加等から林業生産活動の停滞や必要な施業の遅れが生じており、これらの対策が喫緊の課題となっている。</p> <p>このことから、本事業では低コストで効率的な施業を進めるための集約化を図り、～ 齢級の人工林については引き続き適正な森林造成を目的とした下刈、除伐を行うとともに、～ 齢級の林分については路網整備と併せた搬出間伐により材の搬出を積極的に進めていく。また公益的機能の高度発揮に向け、奥地等条件不利人工林の広葉樹林への誘導や、里山における天然林施業等により多様な森づくりを推進していく。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：12,970ha 人工造林、樹下植栽等、下刈、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：6,285,315千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 2.73 (総便益(B) = 33,440,659千円、総費用(C) = 12,209,712千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の現状からみて必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>充実期を迎えた森林資源を背景に、林業生産活動が持続的に実施されることによる山村地域の活性化や、適正な森林整備を通じた森林の持つ公益的機能の高度発揮が期待できる計画となっており、費用対効果等の採択要件も満たしていることから平成23年度から本計画を実施することは適当である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 那珂川

栃木県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	12,458,597	
	流域貯水便益	765,855	
	水質浄化便益	5,943,775	
山地保全便益	土砂流出防止便益	12,107,289	
環境保全便益	炭素固定便益	1,327,021	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	838,122	
総 便 益 (B)		33,440,659	
総 費 用 (C)		12,209,712	
費用便益比	$B \div C = \frac{33,440,659}{12,209,712} = 2.73$		

森林環境保全整備事業 那珂川地域(栃木県) 概要図

